

望ましい集団活動の活性化と自主的・実践的な態度を育てる特別活動の在り方
～ロングの昼休みにおける東小沢っ子カップの実践を通して～

日 立 市 立 東 小 沢 小 学 校

1 はじめに

本校は全校児童数 14 名の小規模校である。人数が少ない学年・学級では友人関係が固定化され、コミュニケーション能力や協調性が育ちにくい。そのため全校児童と一緒に活動する東小沢っ子カップ（ロングの昼休みにおける集会活動）は、計画委員を中心として全校児童で遊ぶ貴重な時間となっている。ここでは本年度に行った東小沢っ子カップの実践例を紹介したい。

2 資料

(1)宝探し

3～4名のグループに分かれ、各グループにそれぞれ別の指示書を手渡した。指示書に書かれた通りの場所に行き、ウォークラリーのように問題を解いていくと、最終的に宝が見つかる。実際にやってみると、指示書に書かれた通りに動くことができず、他のグループの宝をとってしまうグループがあった。計画委員にとっては、失敗の原因を分析し、今後の計画に生かすという意味で良い経験になった。



教室で宝を探す児童

(2)逃走中

テレビ番組の「逃走中」を学校の敷地全体（屋外のみ）を使って行った。ハンター役には計画委員の他、かけ足の速い6年生や職員も加わった。ミッションをなかなかクリアすることができず、2回とも全員ハンターに捕まってしまったが、その後しばらくタッチ鬼が流行るくらい楽しい活動となった。



ハンター役から逃げる児童

3 成果と課題

(1)成果

- ・毎月行っている学校生活アンケートにおいて、1年間を通して「学校が楽しい」100%（4段階評価におけるAとB）を達成できた。
- ・休み時間において、特に低学年の児童は個々に好きなことをして遊んでいる実態があったが、徐々に集団遊びに加わるが多くなり、コミュニケーション力や協調性が育ってきた。

(2)課題

- ・今後も高学年のリーダーシップを育成し、日常生活においても下級生を巻き込みながら遊べるようにする。
- ・低学年は日常生活においても集団生活のルールを守り、友達とよりよく関わりながら生活できるようにする。